

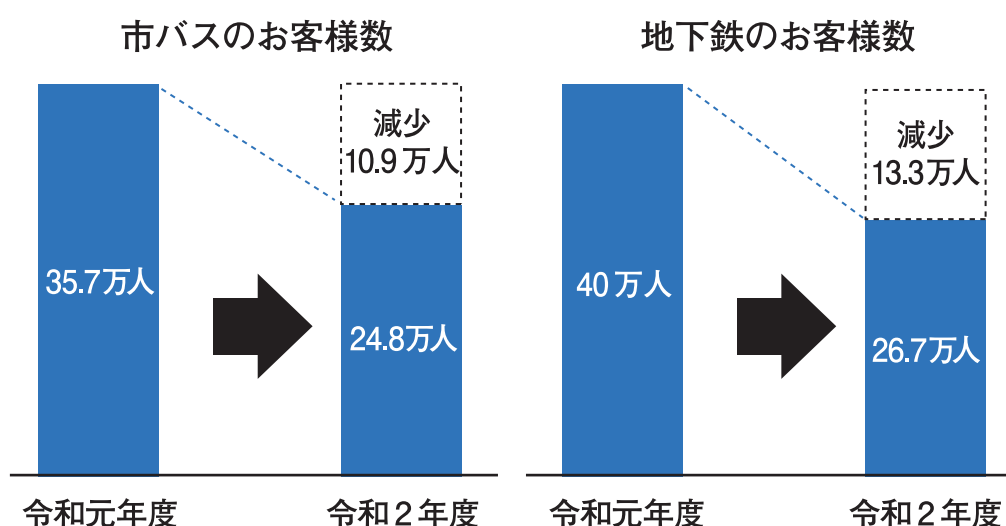
新型コロナの影響で市バス・地下鉄が危機的な経営状況です。 市民の皆様のより一層の御利用をお願いします。

市バスは平成14年度、地下鉄は平成26年度以来の赤字決算

令和2年2月以降、新型コロナの影響により市バス・地下鉄のお客様数は激減

令和元年度は2月以降、新型コロナの影響によりお客様が減少しましたが、市バス・地下鉄事業ともに黒字を確保したものの、令和2年度は、市バス・地下鉄事業合わせた運賃収入が、新型コロナ以前の令和元年度と比べて約150億円の減、1日当たり約4千万円の大幅な減収となりました。市バス・地下鉄事業合わせて5億円の経費削減に努めたものの、運賃収入の大幅な減を埋めるには遠く及びません。

市バス・地下鉄とも
お客様数は1日当たり **10万人** を超える **減少!**



約 **150** 億円
減収

新型コロナ以前と比べて
収入の30%が蒸発!

1日当たり約4千万円の減収!

テレワークなど新たな生活様式の定着や観光の御利用の動向を踏まえると、
新型コロナ以前の状況に戻るかは不透明

このままでは市バス・地下鉄の経営が立ち行かなくなる状況

令和3年度は、あらゆる事業を点検し、9億円の経費節減を行う緊縮予算としましたが、運賃収入は市バスは60億円、地下鉄は82億円もの減収を見込まざるを得ず、市バス・地下鉄とも50億円を超える赤字予算となりました。市バスは、これまで積み上げてきた利益を使い果たし、累積赤字へと転落するとともに、日常の運転資金に不足額が生じる見込みです。地下鉄は、これまでから運転資金に不足額が生じており、運転資金の不足額の累積が過去最大を更新する見込みです。

新型コロナでこれまでの経営努力が吹き飛ぶ結果に

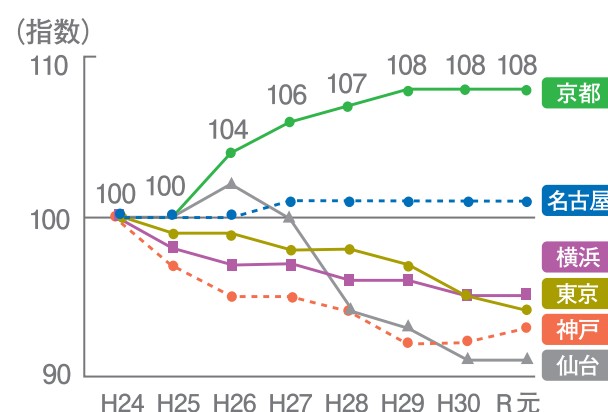
この10年間で1日当たり市バスで5万人、地下鉄で7万人以上の増客を実現し、両事業とも単年度黒字を計上できるまで経営改善を果たしてきましたが、新型コロナでこれまでの経営努力が吹き飛ぶ大変厳しい状況です。

近年の市バスの状況

お客様増と攻めの経営による路線・ダイヤの充実により、他都市と比べて走行キロが増加

車両数	平成24年度 764両	
	令和元年度 822両	+58両
系統数	平成24年度 74系統	
	平成29年度 84系統	+10系統

走行キロ数の推移(指数) 公営交通事業要覧より



「市民の足」を守るため、中長期の経営計画を策定

市民の暮らしとまちを支える公共交通として、将来にわたり「市民の足」としての役割をしっかりと果たせるよう、令和3年度中に持続可能な安定経営に向けた中長期の経営計画を策定します。

交通・まちづくりの学識経験者をはじめ、企業経営者、市民公募委員により構成する「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン検討委員会」を設置し、現在、議論をいただいているところです。

【問合せ】

企画総務部財務課
TEL 075-863-5087
FAX 075-863-5069

第1回京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン検討委員会の資料等ははこちらから
https://www.city.kyoto.lg.jp/templates/shingikai_kekka/kotsu/0000286260.html



コロナ対策を徹底して運行している市バス・地下鉄を安心して御利用ください。